

紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.44

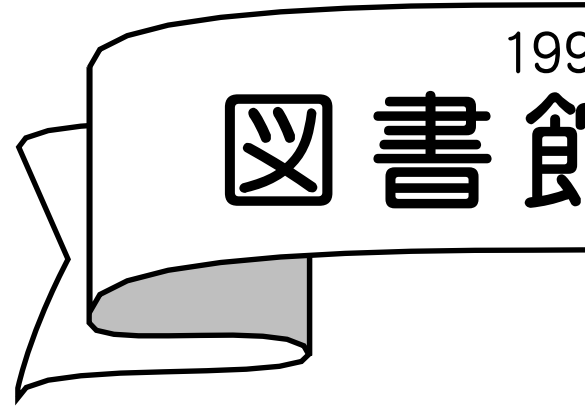
成田市立図書館だより 第44号 2000年（平成12年）1月10日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 成田市赤坂1-1-3

☎ 0476-27-4646
FAX 0476-27-4641



図書館では、成田ゆかりの俳人・三橋鷹女の生誕百周年を記念して『女流俳句の先覚者 三橋鷹女』と題して、鷹女の展示を行いました。



市史講座
 女流俳句の先覚者 三橋鷹女
 一生誕百周年を迎えて—
 中村 苑子 氏

今年の市史講座は明治時代以降の女流俳句の先駆的な役割を果たし、成田が生んだ偉大な女流俳人、三橋鷹女みつはしたかじょにスポットをあてた講座を開催しました。講師の中村苑子先生は今日の俳句会の第一線で活躍されている方で、三橋鷹女を唯一無二の俳句の師であると述べられ、各地で鷹女に関する講演・俳句講座を催している鷹女俳句の最大の理解者でもあります。

今から百年前の明治32年に成田市田町（成田公民館の隣接地）で生まれた三橋鷹女は、中村汀女なかむらていじょ・橋本多佳子はしもとたかこ・星野立子ほしのたつこらと共に女流俳人の4T（共通のイニシャル）と称され、その才能を高く評価されて昭和の女流俳人の最高峰の一人と謳われています。

幼少のころの鷹女は無口でおとなしい少女で、成田女学校時代は図書館によく通い、算数や図画が得意で、作文は苦手であったといわれています。

中村先生と三橋鷹女の出会いは、第1句集『向日葵』ひまわり（昭和15年）でした。「自分がまだ俳句について全く分からない時で、俳句といえば芭蕉ばしやう・一茶いつさ・蕪村ぶそんなどで、年寄りの男性がする文学だと思っていた。俳句でこんなに豊かな感性を表現できるものなのかと、その時のショックは大変なものであった」とおっしゃっています。

しかし、初めから三橋鷹女に心酔した訳ではなかったそうです。心から鷹女に傾倒したのは第4句集『羊歯地獄』しだじごく（昭和36年）からです。「50歳を過ぎこれまでに得た地位や名声をかなぐり捨て、一介の俳人として新しい作品改革に挑み、自己開発をおこなった勇気と決断を尊敬していらっしやいます。『羊歯地獄』発表の3年前、「俳句評論」の創刊では、よもや鷹女さんと一緒に同人として俳句の勉強が出来ることの驚きとその魅力に、それまで所属していた結社をやめ、俳句評論に飛び込んだ自分を、「川の流れのように人間の運命は思いがけない所で変わるものだ」と感慨深げに語っていました。

短時間の講演で三橋鷹女という女流俳人の生き様や人となり、中村先生しか知り得ないエピソードを多く盛り込み、優しい語り口の中にも時に身を乗り出して熱く語る先生の姿が大変印象的でした。

講演終了後中村先生からは、鷹女自筆原稿とゆさはり句会の第2句集『叫塵』きやうじんを図書館に寄贈していただきました。図書館で大切に保管し次回の展示に公開したいと思います。

1999年 官講座

一般講座

世界の医療現場から

永井 明 氏



本人にもはっきりとした理由がわからないまま勤務医を辞めることとなった永井氏は、医療ジャーナリストとして活躍している今も医療界における違和感を私達に語りかけてきます。それは、医者だった立場と医者ではない立場の中間のポジションに立つ事ができるからかもしれません。そして、机上の話だけではなく世界の医療機関を視察したり、老人に変装したり、自分が見聞したことをわかりやすく話してくれます。

「ここらへんで医療を特別とおもうことをやめにして、誰のための医療かと問い直すことが必要ではないか。世界の医療機関を取材した時いつも思うのは、“どこを対象にした誰のための医療か”をぬきにしては考えられないということである。たとえば、アメリカでの金持ちのための病院または、難民キャンプでの日本人医療スタッフの活動などが必ずしも現地の人に満足のいくものではないのは何故か。良い悪いは別にして、これらは極端な例ではあるけれども、医療とはまたは人間の死とはどういうことなのかという本質論に迫るきっかけとなるのではないか。病気を診るのではなく、病人を看ることが大切である。」と語られ、「現在医療不信といわれているなか、私たちも自分自身の意思をはっきり告げていく必要がある。」と結ばれた。

現代の医療は複雑でよくわからないことだらけかもしれません。それでも私たちが医療とどうかかわっていくのかという見方・考え方のヒントになったのではないのでしょうか。

～主な著書～

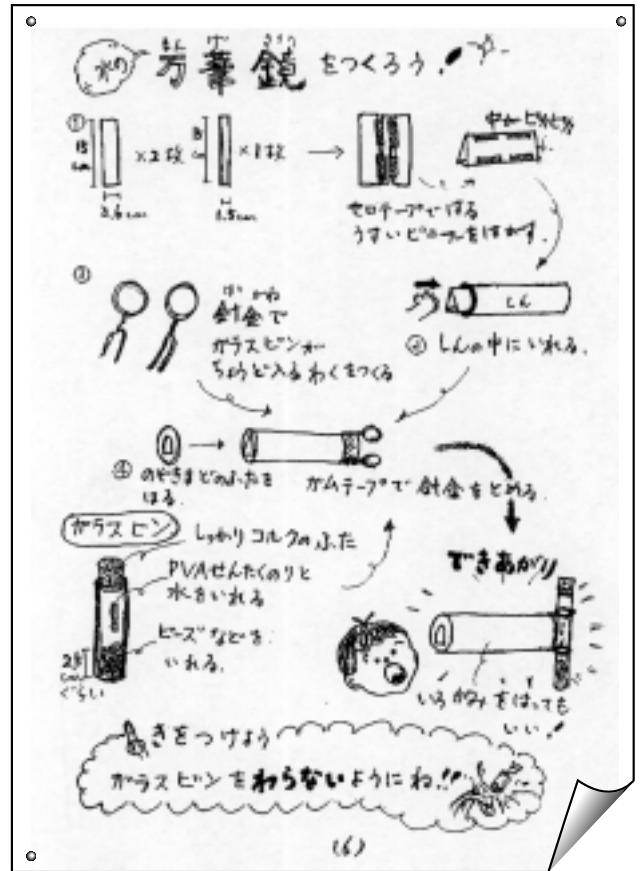
ほくが医者をやめた理由	平凡社	1988年
” つづき	”	1989年
お医者さんの罪な話患者さんの笑えぬ話	青春出版社	1994年
病む人、癒せぬ人	朝日出版社	1997年
朝から寝るまでの心とからだの処方箋	講談社	1998年
実録・ほくの更年期	浩気社	”
ほくに「老後」がくる前に	飛鳥新社	1999年
ほくが「医療常識」を信じない理由	講談社	”

児童講座

反射ってなあに？

～水の万華鏡をつくろう～

坂口 美佳子氏



今年の児童講座は昨年に引き続き、小学生を対象にした科学あそびを行いました。昨年と同様講師に科学読物研究会・坂口美佳子氏をお迎えして、「反射ってなあに？～水の万華鏡をつくろう～」というテーマで7月24日(土)に行いました。

光とはどういう性質なのか？なぜ鏡にもものがうつるのか？身近な疑問から始まり、光や鏡の仕組みまでプリントを1枚ずつ配りながら、子供たちにわかりやすく説明をしていきました。そしてその都度、子供たちに仮説を考えさせ、実験で結果を確かめていきました。

最終的にサランラップの芯を使って、水の万華鏡を作りました。中にいれるビーズの色や配合によって各自オリジナルの美しい絵柄が生まれ、子供たちは目を輝かせて出来上がった万華鏡をのぞいていました。

科学実験というとても難しいことだと思いがちですが、身のまわりの物を使ってこんなに楽しく理解することができます。

図書館には科学あそびの本がいろいろとそろっていますので皆さんも試してみてくださいはいかがですか。

- 『カガミの実験』 立花 愛子/著 さ・え・ら書房
- 『光と見え方実験』立花 愛子/著 さ・え・ら書房
- 『光の科学』 平田 雅子/著 童心社

編集後記

図書館は去る10月27日、15歳の誕生日を迎えました。年々利用者も増え、情報化社会のなか図書館に求められるものも多様化してきています。図書館は皆様の要求に応えられるよう、また利用しやすい図書館を目指し頑張っていますのでこれからもよろしくお願ひします。



成田市立図書館だより
 発行 成田市
 編集 成田市立図書館
 〒286-0017 成田市赤坂1-1-3
 ☎0476-27-4646
 発行日 2000.1.10
 登録番号 成教図522